

女性が変わる、 未来を守る

自然保護に必要なもの

昭和45年、22歳のころ、結婚を機に有明町で生活を始めた宇土さん。自身の仕事と4人の子どもの子育てに奮闘していたころ、有明町漁協女性部（当時、婦人部）に参加しました。当時は「ガネ」と呼ばれるガザミが主要魚種で、毎年「有明ガネまつり」が行われるなど、きれいな海にたくさんの生物が生息していました。今では生物は減少し、泳ぐこともできないくらい海は汚れてしまいました。「自然環境の変化は、海を見れば分かります。なぜなら、その影響が一番受けているのが、漁業者たちだからです」と、婦人部長としての思いを話してくれました。

「人生の達人」

宇土 ミドリ さん (73)

昭和23年、雲仙市国見町で生まれ、育つ。昭和45年、結婚を機に有明町へ生活の場を移す。共働きで4人の子どもを育てながら、有明町漁協婦人部へ加入。自然環境保護の観点から女性団体へ呼びかけ、有明町の海や川を守る活動を続けている。有明町漁協婦人部長（H26～）、有明町海と川を守る会会長（H26～）。有明町湯江在住。

輝く島原人

THE SCENE Vol.46 島原に生きる

以前、地元の子どもたちに環境問題に関する実験を行いました。合成洗剤を入れた水槽に魚を入れると、洗剤の中に含まれる界面活性剤が魚のえらを固め、呼吸ができなくなり死んでいくというものです。「実験の様子を真剣に見る子どもたちの目を忘れられません。知らないことほど怖いものはないのです。CMやインターネット上など一部の情報にとらわれず、真実を理解することが自然環境を守るためには必要なのです」と、胸の内を話してくれました。

ふるさとを守る決意

深刻化する海や川の汚染に対し、「何か行動しなければ」と思い立ち、有明の女性団体が互いに呼びかけあい、平成4年「有明町海と川を守る会」を発足しました。会員として活動中、前会長が体調を崩したため、「どげんか、なるもん」という意気込みで後任を引き受けました。

水質改善のため各団体が交代で、EM活性液（以下「EM」という）を湯江川上流から放流する活動をしています。時には心無い人から「廃油を流している」と疑われることもありましたが、EMとは有用な菌の集合体で、水質を改善する作用が確認されています。そのまま流すと

水質汚濁の原因となる米のとぎ汁も、EMや糖蜜と混ぜて発酵させると、花や野菜の肥料などにもなり、海に流れ出た後はヘドロをろ過する作用があります。

漁業に携わる人々には、漁があつての生活です。一人一人の心掛け次第で、魚やその他の生物の未来が変わります。「生活排水は環境に大きな影響を及ぼします。『生命のふるさと海』を守るため、EMの放流や自然に優しい洗剤の周知・普及を続けることで、昔のように魚がたくさん泳ぐ、きれいな海や川を一日も早く取り戻したいです」と、今後の目標を語ってくれました。



地域住民と海の環境のために、漁協倉庫裏でEM活性液を作る宇土さん